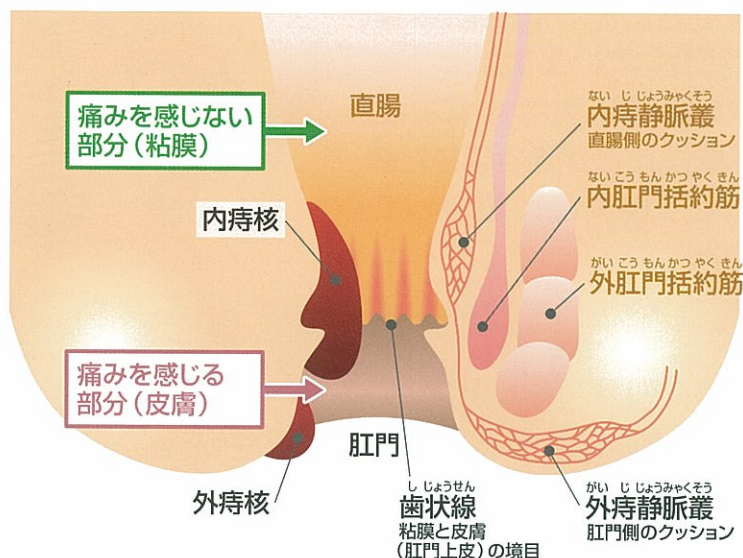


1

痔核(いぼ痔)とは どのような病気でしょうか？

肛門の少し奥には肛門を自然に閉じるための血管に富んだ柔らかい部分があります。肛門への負担が大きくなるとその血管は太くなり、蛇行し、静脈瘤のようになります。それを**痔核(いぼ痔)**と呼びますが、徐々にうっ血が強くなり出血を起こすようになります。さらに長く放置すると痔核は大きくなり、支持している組織が引き伸ばされて肛門の外に脱出するようになります。これを脱肛と呼んでいます。



痔核には、歯状線より直腸側にできる**内痔核**と、肛門側にできる**外痔核**があります。また、内痔核が大きくなって脱出するようになると肛門側の痔核、つまり外痔核を伴って**内外痔核**という状態になることもあります。

2

ジオン注による日帰り治療法とはどのようなものでしょうか？

「脱出を伴う内痔核」にジオン注を投与して痔核に流れ込む血液の量を減らし、痔核を硬くして粘膜に癒着・固定させる治療法です。しかも注射翌日から出血が止まり、数日で痔核が脱出しなくなります。

痔核を切り取る手術と違って、痛みを感じない部分に注射するので「傷口から出血する」「傷口が痛む」というようなことはなく、日帰り治療が可能となりました。

3

ジオン注とはどのような薬でしょうか？

ジオン注の有効成分は硫酸アルミニウムカリウム水和物とタンニン酸です。

硫酸アルミニウム
カリウム水和物

出血状況や脱出状況を改善する

タンニン酸

硫酸アルミニウムカリウム水和物の働きを調節する

有効成分の頭文字からALTA[※](アルタ)とも呼ばれます。

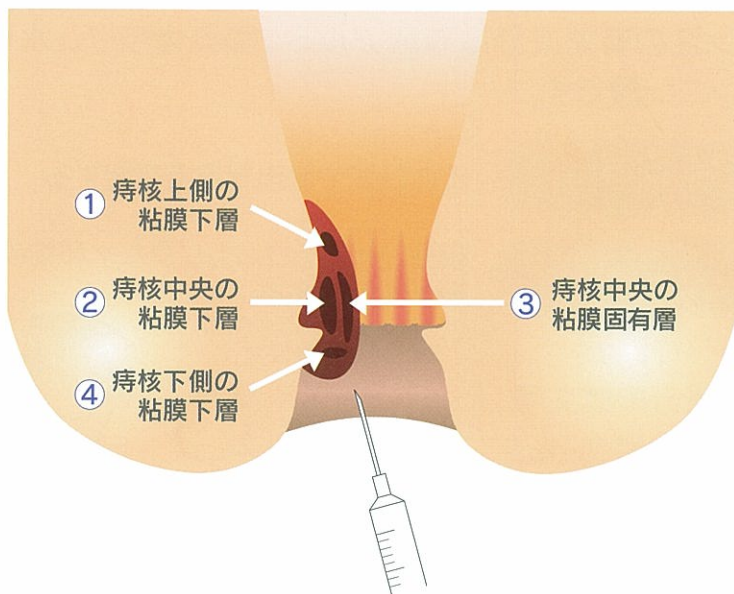
※Aluminum Potassium Sulfate Hydrate・Tannic Acid



4

どのようにジオン注を 投与するのでしょうか？

ジオン注は痛みを感じない内痔核に注射するので痛みはありません。したがって、麻酔は必要ないのですが、肛門鏡を挿入するのに抵抗がある方には肛門を緩めるために麻酔をかけます。麻酔の方法については医師にお尋ねください。ジオン注は四段階注射法といって図のようにひとつの痔核に4か所に分けて注射し、薬液を十分に浸透させます。複数の痔核がある場合は同様に行います。注射後は落ち着くまで30分～1時間程度の安静が必要です。



5

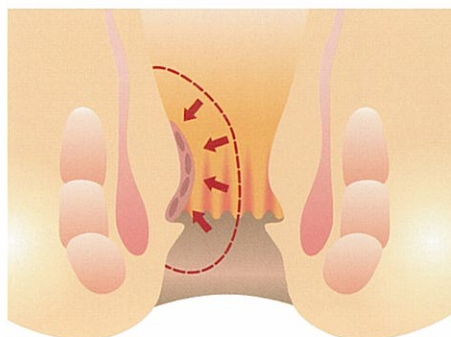
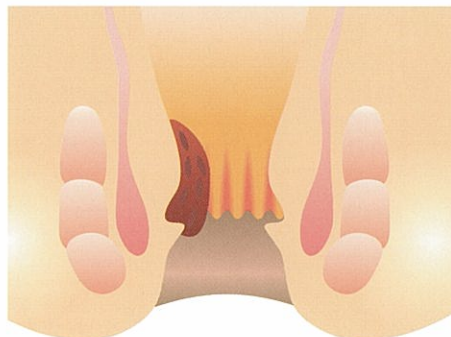
ジオン注を投与すると どのようなになるのでしょうか？

投与後の早い時期に痔核へ
流れ込む血液の量が減り、
翌日には出血が止まり、脱
出の程度も軽くなります。



腫大していた痔核は次第に
小さくなり、引き伸ばされて
いた支持組織も元の位置
に癒着・固定して、脱出がみ
られなくなります。

(1週間～1か月)

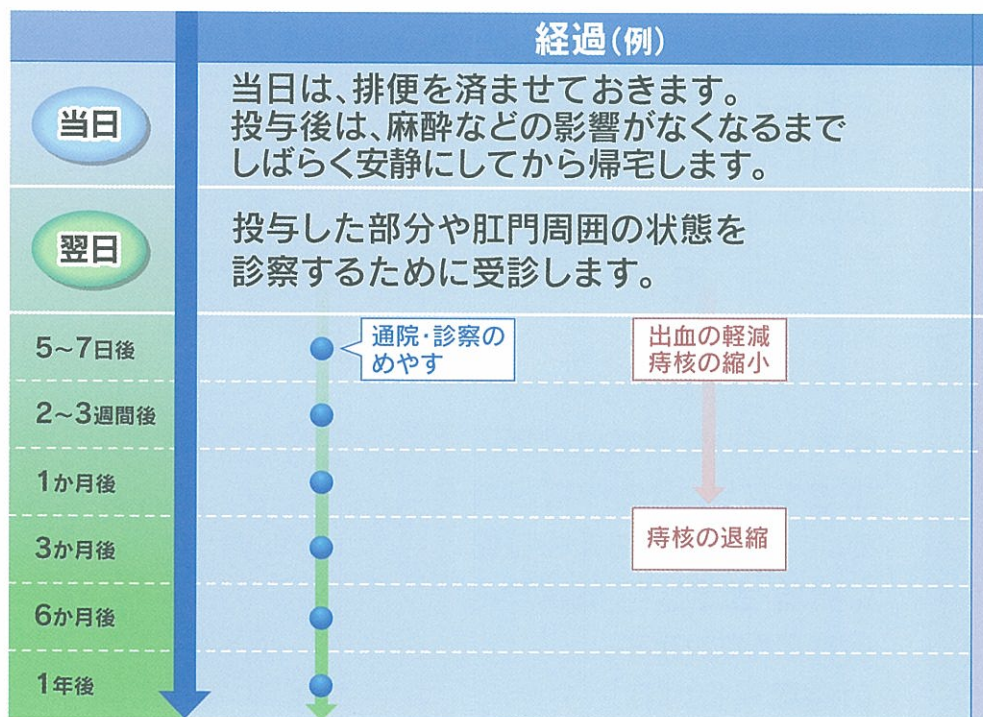


出血が
みられなく
なります。

脱出や肛門の
まわりの腫れが
なくなります。

6

ジオン注投与後の経過は？



排便について

- ジオン注治療後の最初の排便は自宅でもかまいませんが、5分程度で。当日の排便もかまいません。
- 排便時に多少の出血が見られる場合があります。
※ジオン注治療では1~3か月目ごろに出血がみられる場合があります。
- 便が出ないとき、少ないときは浣腸をする場合があります。

通院について

- ジオン注治療を受けた翌日に、診察を受けてください。
- 好ましくない作用(副作用)が起きることもあるので、医師の指示にしたがい定期的に通院してください。

他の医療機関で直腸肛門の診察を受けられる場合には、ジオン注治療を受けたことを必ずお伝えください。

治療後は注射した場所が硬くなっていることがあり、他の医療機関で診察を受けられる場合、この症状を誤って悪い病気と診断される可能性があるため、ジオン注治療を受けたことを申告してください。